

特殊報

令和2年8月21日
奈良県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予察特殊報 第2号の送付について

1. 病虫害名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)

2. 対象作物 スイートコーン、ソルガムなど

3. 特殊報の内容 本県への飛来を初確認

4. 対象地域 県内全域

5. 発生確認の経緯

- 令和2年7月6日に、侵入警戒調査のために奈良県農業研究開発センター（桜井市池之内）のスイートコーンほ場に設置していた性フェロモントラップに、本種と疑われる成虫が捕獲されました。
- 神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県で未発生 of ツマジロクサヨトウと同定されました。
- 県内の農作物における本種幼虫の発生及び被害は確認されていません。

6. 分布と生態

- 本種は南北アメリカ原産であり、2016年にアフリカ大陸で発生が確認された後、2018年までにアフリカ中南部のほぼ全域に分布が拡大し、2018年にはインド、スリランカ、バングラデシュ等の南アジア、並びにタイ、ミャンマーで、2019年には中国、台湾、韓国でも発生が確認されています。
- 国内では2019年7月に鹿児島県の飼料用トウモロコシで国内初確認され、その後全国各地から相次いで発生が報告されています。
- 本種は、アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ）、マメ科（ダイズ等）など80種類以上の作物を加害することが報告されています。これまで国内で発生が確認された農作物は、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビがほとんどです。

7. 形態と被害

- (1) 成虫は開張約 37mm で、雌雄で翅の模様が大きく異なります。雄では前翅の前縁中央部付近に斜めの淡色紋があり、翅頂に鮮明な白斑があります。
- (2) 終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部縫合線が逆Y字状に見えることと、腹部後方の黒色斑点は大きくよく目立つのが特徴です。
- (3) 幼虫は寄主の葉、茎、花及び果実を食害します。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長するに従って加害しながら分散します。また、摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在します。

8. 防除対策

- (1) 多発すると被害が拡大する恐れがあるので、ほ場をよく見回り、幼虫の早期発見に努めて下さい。
- (2) 本種と疑われる幼虫の発生が確認された場合は、まず各農林振興事務所か病虫害防除所にご連絡ください。本種の加害が確認された場合は、県の指導により植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく措置として、国が選定した薬剤を散布します。
- (3) 本種に対して使用できる農薬については、以下の農林水産省ホームページを参照してください。

農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

- (4) 幼虫の分散と蛹の残存を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘します。



図1 トラップに誘殺された雄成虫





図3 ツマジロクサヨトウ幼虫 (老齢約40mm)

※図2、図3は農林水産省出典

お問い合わせは

奈良県病害虫防除所
TEL. 0744-47-4481

病害虫防除所ホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/nara/>